



16 (Fri.)-18 (Sun.)
September 2011

Nagoya
Congress Center

日口腔インプラント誌

J.Jpn. Soc. Oral Implant.

<http://www.shika-implant.org/>

日本口腔 インプラント学会誌

Journal of Japanese Society of Oral Implantology

第41回

公益社団法人 日本口腔インプラント学会
学術大会

(第32回 公益社団法人 日本口腔インプラント学会
中部支部総会・学術大会併催)

第24巻 特別号

会 期:平成23年9月16日(金)-18日(日)

会 場:名古屋国際会議場

主 管:公益社団法人日本口腔インプラント学会 中部支部

大 会 長:堀田 康記

(公益社団法人日本口腔インプラント学会理事・
中部支部支部長)

vol. 24 Special Issue / 2011.9

公益社団法人 日本口腔インプラント学会

O-2-7-2 CT画像による上顎洞内壁の解剖学的調査

○西尾 和彦、渡辺 孝夫、今富 収治、川口 和子、高橋 常男
神奈川県立歯科大学人体構造学講座

Anatomical mesurment of the medial wall of maxillary sinus using CT imaging

○NISHIO K, WATANABE T, IMATOMI S, KAWAGUCHI K, TAKAHASHI T

Department of Anatomy, Kanagawa Dental College

I 目的： 上顎臼歯部におけるインプラント埋入術の一選択肢として上顎洞拳上術がある。上顎骨内壁は本術式における上顎洞内の器具操作に関わる。今回、洞内壁の解剖学的構造を調べるため日本人患者のCT-X線画像データを用いて頬骨歯槽稜線と側頭下窩前縁の交わる点(Z点)を基点とした解剖学的計測を行った。

II 方法： CT-X線画像の資料は、某歯科(市川市,千葉県)を受診し、学術使用を承諾した患者のCT-X線撮影DICOMデータとした。対象患者は女性7名、その年齢は31歳から71歳まで、平均年齢は56.0歳、左右上顎骨を調査対象とした。CT-X線撮影装置は、メディカルサテライト八重洲クリニック(東京)所有のCT-X線装置(Asteion super 4;TSX-021B4B,東芝社製,日本)で、撮影条件は120Kv,150mAスライス幅0.5mm,再構成間隔0.3mmとした。咬合平面は上顎中切歯の midpoint および左右上顎第一大臼歯舌側近心咬頭で作る仮想平面とした。それらの歯が欠損している場合は仮想して構成した。被撮影者の撮影姿勢は仮想咬合平面を床面に垂直に設定した仰臥位とした。撮影して得られたDICOMデータはインプラントシミュレーションソフト(SimPlantTM,Materialize,Belgium)に入力し

た。次に、Z点を結ぶ線(両側Z線)の前額断面を現わし、計測画面とした。CT-X線画像上での形態計測項目は両側Z線からの垂直距離として洞底、鼻腔底、歯槽頂、陥凹点、および正中からの水平距離として内壁陥凹部、内壁豊隆部とした。

III 結果： 垂直距離として両側Z線から洞底まで 14.8 ± 3.5 mm, 同鼻腔底まで 6.9 ± 3.2 mmおよび同歯槽頂まで 20.4 ± 4.1 mm, 同陥凹部まで 7.5 ± 3.3 mmであった。水平距離として正中から内壁陥凹部まで 12.6 ± 2.7 mm, 同内壁豊隆部まで 17.9 ± 1.8 mmであった。

IV 考察および結論： 今回の調査から洞内壁は洞内に突出し、洞底部で鼻腔側へ平均 5.3 ± 2.7 mmほど陥凹していた。Z点より前方では陥凹が大きかった。洞内壁での器具操作はこれらの形態学的特徴を踏まえて行う必要があると考えられた。本調査より洞内壁は外側に突出し、洞底部では内方へ陥凹していた。